

La Confiance

ラ・コンフィアンス

大阪赤十字病院 患者総合支援センターだより

Confiance (コンフィアンス)とは、フランス語で「信頼、信用」を意味します。

vol.43

2024年 春号



令和6年度を迎えて 大阪赤十字病院 院長 坂井 義治

Topics

国際医療救援部の活動／『食道がん診療センター』を開設しました

診療科紹介 医療最前線 〈歯科口腔外科〉

顎変形症に対する外科的矯正治療



令和6年度を迎えて

大阪赤十字病院 院長 坂井 義治

日頃より当院へ多大なご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

すでにご紹介させていただいていますとおり、当院は中期計画として、1)スリム化、2)高機能化、3)情報発信 を掲げて3年目を迎えます。1)は人口減少、疾病構造変化、入院期間の短縮にともなう地域病床機能再編への対応であり、一昨年4月に急性期55床を削減し、今年度はさらに急性期26床を削減します。2)の対応としては、一昨年5月に2台目の手術支援ロボットを導入し、昨年は計413件のロボット支援手術を行いました。また、昨年9月にハイブリッド手術を開始し、より高度な血管内治療の提供が可能となりました。今年5月にはSCU・HCU病棟が竣工しSCUは3床から6床に増床、HCU16床が新たに稼働します。これにより、救命救急センターの患者応需がよりスムーズになることを期待しています。さらに、より精度の高い放射線治療を目指したシステムの更新と、急性の胆道・膵疾患への対応として内視鏡透視室の増設を行います。3)への対応として、これまで続けてきたHP上での市民公開講座、ラインやインスタグラムによる情報発信に加えて、地区医師会のご協力のもとに地域での講演会も企画しております。これからも皆さまのご支援をいただきながら地域医療に貢献したいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

Topics

国際医療救援部の活動

国際医療救援部は直接診療に関わっていないため、当院と連携する医療機関の方々にはあまり馴染みがないのではと思います。そこで今回は国際医療救援部について紹介させていただきます。



国際医療救援部長
兼 泌尿器科部長
光森 健二

そもそも日本赤十字社は災害時や紛争時に人道的支援を行う団体であり、災害救助法により国および都道府県等が行う救助に協力する義務を負っています。



▲元旦から当部内で情報を収集



▲巡回診療の様子(避難所となった輪島市の高校)



▲フィールドホスピタル全景

また、赤十字・赤新月社連盟の一員として海外での人道危機に対して物資や資金、人員を送って援助も行っています。

日本赤十字社は全国で91ある赤十字病院のうち5つの赤十字病院を「国際医療救援拠点病院」に指定しており、当院もその一つです。

当院では国際医

療救援も国内救護も当部署が中心となって取り扱っています。全職員から救護員を募って研修を行い、実際の災害時には情報収集、大阪府赤十字社支部との連絡、救護班の編成と器材の準備、ブリーフィングを行います。

今回の「令和6年能登半島地震」では、元旦から職員総出で対応し、2日にはコーディネーター班、3日には救護班を送り、3月14日時点で救護班10班80人、コーディネーター4班9人、心のケア班1班2名、物資給水支援2班3名を送っています。

海外医療救護に関しては当部署が中心となって従来の診療所型の緊急派遣ユニットから病院型のユニットにスケールアップした器材を整備して現在WHOによる承認を受けるべく準備をしています。

災害対応に必要な準備作業は当部署で行っていますが、災害発生時には診療科の医師や看護師を被災地に急遽派遣することになります。残った医師や看護師が業務をカバーいたしますが、どうしても急な予約変更や担当医の変更をお願いすることがあります。ご迷惑をおかけいたしますが、当院の災害救護に関する公的役割としてご理解賜りますようお願いいたします。

顎変形症に対する外科的矯正治療

●顎変形症とは？

顎の骨は上顎骨と下顎骨、頬骨で形作られています。

顎変形症は、顎の骨の形、大きさの異常や位置バランスの崩れが原因で起こります。

顎のバランスが崩れているので、見た目(受け口や出っ歯等)の問題だけではなく、かみ合わせが悪くて上手にかめない、話づらいなどといった症状などの機能の異常を生じることがあります。



▲下顎が上顎よりも前方にあり、前歯のかみ合わせが反対を呈する。



▲上顎が前方に突出し、前歯がかみ合わない。

●顎変形症治療の目的

顎変形症治療は顎骨の異常に伴う顔貌および歯列(歯並び)の審美的な改善と咀嚼、会話など顎口腔機能の改善の両者を目的として行われます。さらにそれに付随して存在する心理的な悩みを改善することを目的としています。

●顎変形症の治療(外科的矯正治療)について

顎変形症による問題(かみ合わせが悪い、受け口や出っ歯等の見た目)を治すために、原則的には手術前に矯正治療(術前矯正治療)をし、その後外科手術(顎矯正手術)を行います。手術は一般的に骨の成長が止まる時期以降に行います。



手術後にも最終的なかみ合わせの調整を目的に、矯正治療(術後矯正治療)が必要となります。したがって、外科的矯正治療は長期(数年間)にわたることとなる治療です。

外科的矯正治療は基本的には医療保険の対象となる治療です。

●手術の方法

約10日間の入院の上、全身麻酔で行います。手術は基本にお口の中から行いますので、顔の表面に傷が残ることはありません。顎の骨を切って移動させ、かみ合わせや左右のバランスが整う位置に持ってきて、骨接合材(プレートやスクリュー)で固定します。

●手術後の生活

手術の翌日に顎間固定を行います。手術後約1週間顎間固定を行いますのでその間はお口を開けることができません。鼻からチューブを入れて鼻腔栄養となります。

Profile

歯科口腔外科部長
正重 裕一



1998年大阪歯科大学卒業。
2004年大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程(口腔外科学専攻)修了。大阪医療センター口腔外科勤務を経て、2008年大阪歯科大学口腔外科学第二講座助教。2017年大阪歯科大学口腔外科学第二講座講師。2022年大阪赤十字病院歯科口腔外科勤務。2024年4月より現職。
[日本口腔外科学会認定指導医、専門医]

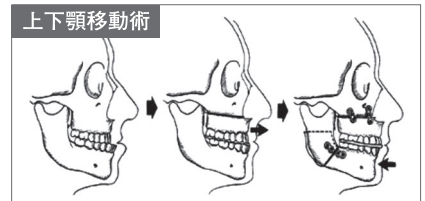
退院時には顎間固定を解除しますので少しお口を開けることができます。

しかし、ものをかむという動作は患部に非常に大きな力が加わり、プレートの破折や骨片のずれが生じる可能性があります。そのため、退院してから約3カ月間は流動食からミキサー食、さざみ食のように徐々に食形態をUPしていきます。術後3カ月経過して問題なければ普通食が食べられます。

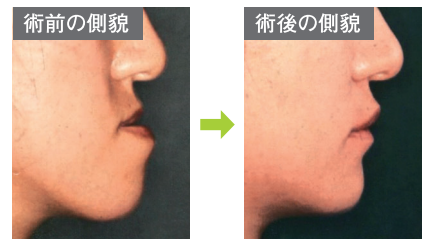
●顎変形症手術の進展

顎変形症の手術は1849年に行われたのが最初と報告されていますが、現在の手術術式が世界的に確立されたのは約50年前になります。

術式には上顎骨に対する手術としてLe Fort I型骨切り術、上顎前歯槽骨切り術があります。下顎に対する手術には下顎枝矢状分割術、下顎枝垂直骨切り術、下顎前歯槽骨切り術などがあります。また、患者さんの要求度が増えるにいたって、術式においても単一の手術のみで対応できなくなり、上下顎同時移動術など複合手術や骨延長術の必要な場合もあります。一方、数年前より矯正治療の固定源として新しい概念であるスケルタルアンカレッジ(SAS)が開発され、従来の矯正治療では困難であった大臼歯の遠心移動や歯の圧下が可能となり、新しい矯正治療法手段として応用されるようになっていきます。

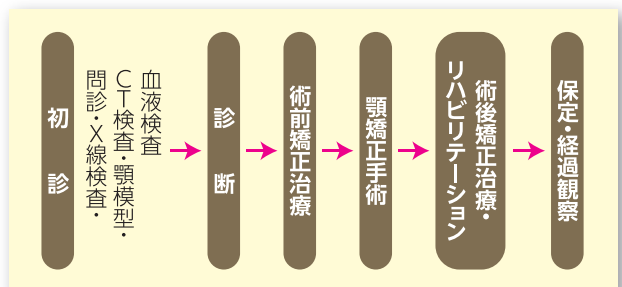


▲上顎にLe Fort I型骨切り術、下顎に下顎枝矢状分割術を適用。



▲外科的矯正治療によって咬合とともに容貌も改善する。

▼顎変形症の治療チャート



Topics-2 「食道がん診療センター」を開設しました

● 消化器外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科が 合同で診療にあたります

胃がんや大腸がん比べ予後が悪く、昔から集学的治療が必要とされてきた食道がんですが、近年、免疫チェックポイント阻害剤（ICI）をはじめとする化学療法や腫瘍に対するより厳密な放射線治療が導入され、手術は開胸手術から胸腔鏡手術の時代へ、さらにはロボットを用いた低侵襲手術が台頭することによって、その診療は大きく様変わりしています。

この度、当院では食道がんの病態に合わせ最適の診療が行えるよう窓口を一本化し、「食道がん診療センター」を設立しました。消化器外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科が合同で、また、各科医師以外にも看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士等の多職種がチームとなって診療にあたります。

深達度の浅い表在がんには内視鏡的治療がその中心で、これに化学放射線治療が加わる場合があります。ある程度進行した食道がんには術前化学療法（あるいは化学放射線療法）を行った上での食道全摘術が標準治療です。

当院では、2011年から胸腔鏡を用いた低侵襲手術をほぼ全症例に行っており、2018年からは『da Vinci Xi（ダヴィンチ）』を用いたロボット手術を積極的に導入してきました。傷が小さく術後の痛みが少ないことはもちろん、拡大視野での精緻な手術を徹底し、「切除すべきところを確実に切除し、一方、温存すべき臓器や神経は綺麗に温存する」本当の意味での低侵襲手術を行い、成績は向上しています。また、さらに進行した食道がんに対しては、ICIをはじめとする化学療法や、腫瘍に線量を集中

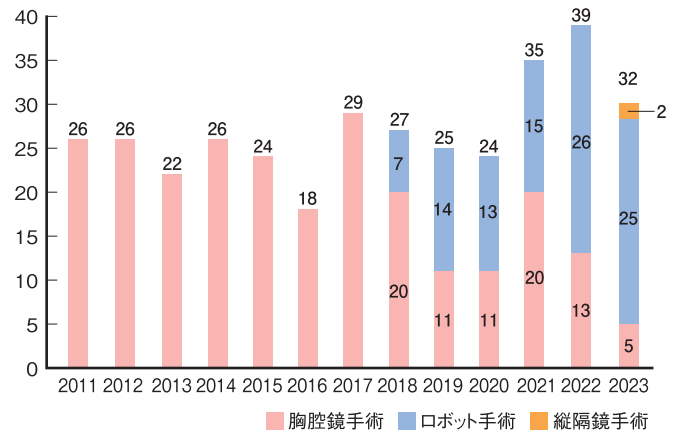


消化器外科
兼 小児外科主任部長
金谷 誠一郎

し周囲の正常組織への照射を減らす強度変調放射線療法（IMRT）を行い、必要に応じ緩和ケア科とも連携し全人的ケアを行います。

各科合同でのカンファレンスを定期的に行い、各々の症例にエビデンスに基づいた最適な治療を提供しています。食道がんの患者紹介にとどまらず、些細なことでもお気軽にご相談いただければ幸いです。

▼ 食道がん手術症例数



人事異動紹介 新任・昇任の部長・副部長（2024年4月1日付）



新任
脳神経内科
部長
井上 学



新任
血液内科
副部長
大中 貴史



新任
歯科口腔外科
副部長
本橋 具和



新任
救急科
副部長
東 秀律



昇任
産婦人科
部長
岩見 州一郎



昇任
呼吸器内科
部長
黄 文禧



昇任
歯科口腔外科
部長
正重 裕一



昇任
腎臓内科
副部長
古賀 健一



昇任
消化器外科
副部長
濱口 雄平



昇任
眼科
副部長
松山 浩子



昇任
糖尿病・内分泌内科
副部長
森 栄作



昇任
血液内科
副部長
多田 浩平



昇任
呼吸器外科
副部長
坂口 泰人

Information 2024年4月より、「医療連携課」は「医療連携・入退院支援課」と名称を変更いたしました。

発行
大阪赤十字病院 医療連携・入退院支援課
大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30
<https://www.osaka-med.jrc.or.jp>

2024年4月発行

■医療連携・入退院支援課のご案内
受付時間／平日8:30~20:00、土曜8:30~13:00
休診日／日曜・祝日、12月29日~1月3日（年末年始）、5月1日（本社創立記念日）
連絡先／（直通）TEL:06-6774-5127
FAX:06-6774-5126